



OUIK Newsletter

国際会議の成果を糧に

国連大学高等研究所
いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット
(UNU-IAS OUIK)
所長 竹本和彦



秋も深まり、稲刈りの時期を迎えました。私達 OUIK にも、オーナーとなっている「白米千枚田」から刈入れの案内が届きました。

本年は5月に能登で世界農業遺産 (GIAHS) 国際会議が、また9月には福井で SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ第4回定例会合 (IPSI-4) も開催されました。OUIK としても、これらの重要な国際会議に参画し、所要の貢献をすることが出来ました。

前号の Newsletter でもお知らせしたとおり、OUIK は、上記 GIAHS 国際会議に向けて東アジア地域からのインプットを行うため、GIAHS 国際ワークショップを開催しました。GIAHS 国際会議では、国連食糧農業機関 (FAO) のシルバ事務局長を迎え、ハイレベルの政策議論を行うとともに、国内から新たに3ヶ所のサイトが GIAHS としての認定を受けるなど実り多い会議となりました。OUIK は、職員を会議事務局に派遣し、「能登コミュニケ」の原案作成などの会議運営に貢献しました。また上述の GIAHS 国際ワークショップでの議論を契機に、「持続可能な農林水産業 (SPI)」研究のネットワークが一層広がり、8月末には、韓国済州島にて日中韓3ヶ国の専門家による研究会を開催し、今後の研究進展に大きな足掛かりを見出すことが出来ました。

また IPSI-4 は、9月中旬、約30ヶ国から143名の参加を得て、福井県下において開催されました。日本での IPSI 定例会合開催は、2011年の名古屋に次いで2回目となりますが、海外の参加者が県内17市町村の民家に滞在する里山ステイプログラムや現地視察など盛りだくさんの行事が計画され、また IPSI 行動計画が採択されるなど、多くの成果を挙げました。OUIK は、事務局の一員としてポスターセッションの運営を担当しましたが、これは IPSI としても新たな試みで、今後の IPSI 加盟団体の更なる参画を促す新たな道を切り拓いたといえます。また IPSI-4 の開催期間に、SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワークが発足し、石川県知事が共同代表として選出され、新たな活動が開始されることになりました。このように IPSI-4 における成果は、OUIK の「里山・里海 (SAS)」研究チームにとって、今後の研究課題の方向付けにあたり極めて有意義なものとなりました。

11月1日に開催するセミナーは、これらの国際会議の成果を踏まえ、OUIK の研究活動を今後どのように進展させていくかに焦点を合わせて議論するものです。国連大学では、先般お伝えしたとおり、本年3月にデイビッド・マローン学長が就任し、新たなスタートを切ったところでありますが、8月下旬にはマローン学長を石川県に迎え、石川県知事との面談を通して、今後の協力を確認したところです。OUIK としても、学長の明確な方針に沿って、研究成果を世界に対し、さらに発信していきたいと思っています。今後とも皆様方のご理解とご支援を引き続きお願い致します。

OUIK の活動目的

1. 持続可能な社会づくりを目指し、地域のパートナーと協働しつつ、国際社会が取り組む研究活動に対し、地域レベルの視点から貢献していく。
2. 国際動向に関する最新情報を共有しつつ、普及啓発・人材育成活動を通じ、地域の多様な関係者との対話を進め、ネットワークを構築していく。

SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI) 第4回定例会合 開催報告

国連大学高等研究所は、本年9月12日から14日の3日間、福井県において SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ第4回定例会合 (IPSI-4) を開催しました。

この会合は福井県と環境省が共催し、国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット (UNU-IAS OUIK) も主催者の一員として参加しました。

会期中は、エクスカージョン、総会、公開フォーラム、ポスターセッション等が行われ、会合のテーマ「生物多様性の保全と人間の豊かな暮らしの実現に向けた IPSI 戦略の実施」について、発表や意見交換などが行われました。

初日のエクスカージョンには64名が参加し、越前市白山地区と三方五湖周辺地区を視察しました。越前市白山地区では、コウノトリの野生復帰を目標に実施されている環境保全・里山振興の取り組みが、また、三方五湖周辺地区では、湖魚が水田へ遡上するための魚道の確保、シジミの生育環境の再生など、地域の多様な主体が参加する自然再生の取り組みが紹介されました。

9月13日午前開催された IPSI 総会には、68団体の代表ら124人が出席し、冒頭、田中和徳環境副大臣と西川一誠福井県知事が開会挨拶を行いました。総会では IPSI 戦略を実施に移すための行動計画が承認され、次回会合 (IPSI-5) を、生物多様性条約第12回締約国会合 (CBD COP12) に合わせ、2014年10月に韓国の平昌 (ピョンチャン) にて開催する案が発表されました。



越前市白山地区の水田を視察する参加者

13日の午後から翌14日の午前には、「地域の視点からみた社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ (SEPLS) の保全と活用における課題と可能性」をテーマに公開フォーラムが行われ、143人が参加しました。公開フォーラム冒頭の全体会合では、星野一昭環境省自然環境局長が IPSI 設立の経緯に触れ、IPSI-4 の開催意義と期待を表明しました。続いて、関岡裕明氏 (株式会社環境アセスメントセンター敦賀事務所所長) が、福井県における SEPLS

の保全と持続可能な利用に取り組む専門家として、福井県内の里山里海 (湖) の経験と教訓に関する発表を行いました。その後、世界の SEPLS 管理に関して、IPSI メンバー5団体が先進的な活動を紹介し、各地域の体験と教訓を共有しました。全体会合に引き続き、メンバーは5つの分科会に分かれ、意見交換と討議を行いました。IPSI メンバーの多くが、福井県主催の里山ステイプログラムやエクスカージョンへの参加を通じ、福井県内における地域の経験に基づいた新しい知見を得ていたこともあり、分科会では活発な議論が交わされました。議論の結果は、公開フォーラム2日目の全体会合の場で発表されました。



公開フォーラム全体会合の様子

これらの発表や議論を通じ、以下のような事項が重要であるとの理解が、多くの参加者により共有されました。

- SEPLS の複雑さを理解するためには、その生態的、経済的、社会的な要素を十分に理解し、考慮に入れる必要があること。
- 異なる生態系のモザイクからなる SEPLS の統合的な管理を促進するためには、生態系間の結び付きを高めるような土地利用・管理計画やガバナンスの仕組みを向上するための努力が必要であること。特に、生物多様性国家戦略や地方戦略に SATOYAMA イニシアティブの考え方を組み込むことが重要であり、それが地域や現場における活動を進める上でも重要であること。
- 地域レベルでの SEPLS 管理は分野横断的な利益関係者の協力が必要であり、例えば、よく管理された SEPLS で生産された商品などにブランド価値を付与したりマーケティングを工夫したりすることにより、生物多様性から得る利益共有をより公正にする新たなメカニズムの確立のための努力が重要であること。
- SEPLS を適切に管理・保全していくためには、持続可能な範囲での人間活動が継続していることが必要であり、

SEPLS の過剰利用はもちろんのことながら、地域の高齢化、過疎化等に伴う SEPLS の利用放棄もまた危機の一形態であること。

・SEPLS の維持・保全には担い手の育成も重要であり、能力開発は依然大きな課題であること。特に、次の世代を担う若者や、女性の参画を促すことが重要であること。

・SEPLS は、本来そこに人が暮らし生業を営む場所であり、その保全・管理に当たっては、地域の視点に立って、地域をよく知る住民と、専門的知識を持った研究者・専門家とがコミュニケーションを確立することが重要であること。また、そのためには真の意味でのボトムアップアプローチや幅広い関係者の参加が確保される必要があること。

・そして、まず何よりも、あらゆる主体がそのランドスケープの重要性を認識し、その風景に対する愛着を共有し、その恵沢を享受するとともに、それを将来にわたって保全する責任を認識し、全うしていく必要があること。

公開フォーラムの閉会にあたり、竹本和彦 IPSI 事務局長より、今回合会の成果は IPSI 戦略の実施に生かされるとともに、次回定例会合に向けたロードマップの検討などに反映されること、地域合会の開催などにより、地域レベルにおける、より具体的な議論を促進していくことなどが紹介されました。また、今回合会で行動計画が策定されたことを受けて、IPSI の活動がいよいよ実施段階に入ったことに触れつつ、参加者に対し、合会の成果や経験を持ち帰り、それぞれの活動に生かすなど、SATOYAMA イニシアティブの実現への貢献を呼びかけました。さらに、IPSI 事務局としても合会の成果を国際的に発信していく意向を表明しました。

9月13日から14日にかけて行われたポスターセッションでは、IPSI 部門44点、福井部門53点のポスターが出展されました。また、IPSI の協力活動の一環として、インクカートリッジ里帰りプロジェクト、福井県、及び国連大学の協力により SATOYAMA ポスターアワードが実施され、参加者の投票で選ばれた作品が14日午後の県民シンポジウムで表彰されました。

OUIK は IPSI 部門にポスターを出展し、能登半島における里山再生の取り組みについて発表しました。



ポスターセッション (IPSI 部門) 表彰式

このほか、13日夜には、武内和彦国連大学上級副学長がモデレーターを務め、西川一誠福井県知事と谷本正憲石川県知事を招いて、日本における里山里海の保全に関する代表的な政治的リーダーとIPSIメンバーとの「SATOYAMA ダイアログ」が行われました。

西川知事からは、コウノトリを指標種とする持続可能な里山の管理やブランド化された無農薬米の生産・流通、三方五湖における自然再生、里山里海湖研究所の設立など、福井県の里山里海(湖)に関する積極的な取り組みが紹介されました。

谷本知事からは、世界農業遺産 (GIAHS) の取り組み等、里山里海の保全と持続可能な利用に関して発表が行われ、里山里海に居住する住民の役割が強調されるとともに、ファンドの創設や民間企業との連携など、支援のための新しいアプローチが紹介されました。また、両知事より、日本における国内ネットワークの設立が報告され、政治的リーダーシップの発揮に対する意欲が表明されました。

今回の合会は多数のメディアで報道され、地域社会や市民レベルの SATOYAMA イニシアティブへの理解が大きく高まるなど、合会は成功裏に終了しました。



国連大学学長が石川県を訪問しました

8月22日から23日にかけて、デイビッド・マローン国連大学学長が、今年3月の就任後、初めての国内出張として石川県を訪問しました。同行した武内和彦国連大学上級副学長、竹本和彦国連大学高等研究所 OUIK 所長と就任挨拶のために石川県庁を訪れたマローン学長は、谷本正憲石川県知事との面談のなかで、生物多様性保全や持続可能な社会の実現へ向けた石川県の取り組みを評価するとともに、石川県と国連大学との連携の重要性を強調し、OUIK への支援に対する感謝の意を表しました。午後は OUIK のオフィスにて研究活動について報告を受けた後、石川県職員の案内で兼六園と伝統産業工芸館を見学し、金沢市、石川県の伝統文化を堪能しました。

翌23日は、石川県国際交流センターを訪問した後、OUIK の研究フィールドでもある能登半島へ移動しました。能登ではキリコ会館と白米千枚田を視察し、白米千枚田では、保全団体の代表者からオーナー制度について説明を受けるなど、地域の文化や自然に触れながら OUIK の研究に対する理解を深めました。



谷本知事との面談の様子

活動報告

都市と生物多様性 (CAB)

「生態系と都市の文化的多様性との関係を考えるための集中シャレット」

開催日：2013年9月14日～16日

「都市と生物多様性 (CAB)」研究チームは、OUIK 初の試みとなるシャレット形式のワークショップ¹を行い、CAB 研究会メンバーの呼びかけで集まった大学院生を中心に、行政や NPO の関係者を含む 24 名が参加しました。今回のシャレットでは、テーマを「用水と文化多様性：日常のなかの用水、生活文化との関係性」と「河川と文化多様性：文化の中で河川が担ってきた役割」の2つに絞り、3つのグループに分かれて議論を重ね、グループごとに生態系と都市の文化多様性との関係を議論し、その結果を政策提案としてまとめました。

初日は「文化」や「生態系サービス」の定義、金沢市の条例等について説明を受けた後、加賀友禅作家のアトリエを訪問し、友禅と河川生態系や自然環境との関わりについて理解を深め、地域生態系と金沢の文化との繋がりを考察しました。

2日目はグループに分かれ、用水グループは長町武家屋敷地区の用水の調査を行いました。河川グループは犀川大橋周辺を見学後に加賀毛針の店舗を訪問し、河川生態系の存在から鮎釣りの毛針が発達し、それが地域の文化に昇華することを学びました。

最終日は各グループが、地域の生態系を活かした文化的活動や景観形成等を政策提案し、それを研究会メンバーが講評して、3日間のシャレットを終了しました。シャレットを通して、参加者の多くが生態系と文化のつながりを見直す機会を得ることができました。



グループごとにプレゼン資料を作成する参加者

¹ シャレットとは、短期間に集中して案をつくる作業のことで、まちづくりや都市計画の手法の一つ。

発行：2013年11月1日

国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット (UNU-IAS OUIK)

〒920-0962 石川県金沢市広坂2-1-1 石川県政記念いのき迎賓館3階

Tel : 076-224-2266

Fax : 076-224-2271

E-mail : unu-iasouik@ias.unu.edu

http://www.ias.unu.edu